

## 建設・住宅・不動産

### 1. 評価対象企業（16 社）

大成建設、大林組、清水建設、長谷工コーポレーション、鹿島建設、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、東急不動産ホールディングス、TOTO、LIXIL（注）、リンナイ、三井不動産、三菱地所、東京建物、住友不動産

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）LIXIL グループが商号を変更した（2020 年 12 月）。

### 2. 評価方法等

#### （1） 評価基準の構成および配点

| 評価分野                            | 下記本文中の略称       | 評価<br>項目（注）数 | 配点  |
|---------------------------------|----------------|--------------|-----|
| ①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス | 経営陣の IR 姿勢等    | 2            | 25  |
| ②説明会、インタビュー、説明資料等における開示         | 説明会等           | 3            | 29  |
| ③フェア・ディスクロージャー                  | フェア・ディスクロージャー  | 2            | 16  |
| ④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示         | コーポレート・ガバナンス関連 | 2            | 13  |
| ⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示             | 自主的情報開示        | 2            | 17  |
| 計                               |                | 11           | 100 |

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

#### （2） 評価実施アナリストは 27 名（所属先 22 社）である。（氏名等は後掲）

### 3. 評価結果

#### （1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目の整理・統合を目的として、評価分野全般において項目削除または内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.8 点（昨年度 71.3 点）、総合評価点の標準偏差は 6.3 点（昨年度 4.5 点）であった。
- ② 業態別の評価平均点を比較すると、高得点順に、住宅設備（3 社：TOTO、LIXIL、リンナイ）：75.5 点（昨年度 68.2 点）、住宅・不動産（9 社：長谷工コーポレーション、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、東急不動産ホールディングス、三井不動産、三菱地所、東京建物、住友不動産）：75.3 点（昨年度 73.8 点）、建設（4 社：大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設）：68.8 点（昨年度 67.8 点）となった。昨年度に比べ、住宅設備の各社が総合評価点を大きく伸ばした結果、住宅・不動産、建設を上回った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 71%）、説明会等が 76%（昨年度 75%）、フェア・ディスクロージャーが 81%（昨年度 79%）、コーポレート・ガバナンス関連が 74%（昨年度 69%）、自主的情報開示が 64%（昨年度 57%）となり、5 分野全てで、昨年度を上回った。
- ④ 評価項目を見ると、全 11 項目のうち、次の 2 項目（説明会等、フェア・ディスクロージャーの中の各 1 項目）が平均得点率で 80%以上となり（昨年度は 4 項目）、高水準となった。

- (a) 「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか」(平均得点率 83% [昨年度 81%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 80%台 14 社・70%台 2 社)
- (b) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか (四半期ごとに開催: 満点)」(平均得点率 82% [昨年度同率]) (得点率: 100%13 社・0%3 社)

⑤ 一方、次の項目 (自主的情報開示の中の 1 項目) は、平均得点率が 50%台の低水準となった (昨年度は 2 項目)。

- ・ 「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していますか」(平均得点率 59%) (得点率: 30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 5 社・60%台 3 社・70%台 4 社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 積水ハウス (ディスクロージャー優良企業 [初受賞]、総合評価点 84.0 点 [昨年度比 +7.8 点]、昨年度第 3 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 83%)、コーポレート・ガバナンス関連 (85%)、自主的情報開示 (83%) が第 1 位、説明会等が同得点第 2 位 (86%)、フェア・ディスクロージャーが第 3 位 (84%) となった。昨年度に比べ、5 分野全てで得点率が改善し、特に、自主的情報開示の上昇幅が大きかった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップとの対話の機会が多く、経営の理解や意見交換ができることや、経営陣が事業説明会など IR に積極的に関与していることを評価する声が寄せられた。また、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」(同得点第 4 位) も 80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」が高い評価となった。これに関連して、部門別の受注、売上利益の実績と見通しの開示が明確であるとの声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は、第 1 位と僅差の第 3 位であった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明資料や期中のデータが公平に提供されていること」が高い評価となった。また、「経営陣および IR 部門が情報開示 (メディア対応を含む) に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も評価され、第 1 位と僅差の第 2 位であった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、資本政策、株主還元策の開示を評価する声があった。また、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「非財務情報 (ESG 情報、統合報告書等) の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。また、「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は、同得点第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。内容が充実していたものとして、ESG 説明会、海外事業説明会が挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

### 第 2 位 大和ハウス工業 (総合評価点 82.4 点 [昨年度比 +4.7 点]、昨年度第 1 位)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第 1 位 (85%)、コーポレート・ガバナンス関連 (82%)、自主的情報開示 (78%) が第 2 位、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 2 位 (82%)、説明会等が第 4 位 (84%) となった。昨年度に比べ、5 分野全てで得点率が上がった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること」が評価された。これに関連して、経営トップとの対話の機会が設けられ、経営の理解や意見交換ができることを評価する声が寄せられた。なお、経営陣の業績見通しの説明、ニュアンスに温度差が感じられるとの声もあった。「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」も評価された。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」も 80%以上の得点率となった。なお、先行きの見通しについて、経営トップの明確なメッセージの発信を期待する声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていること」が最も高い評価となった。また、「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も評価され、第 1 位とは僅差であった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が最も高い評価となった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は同得点第 3 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」が評価された。また、「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は、同得点第 2 位となった。内容が充実していたものとして、ESG 説明会、事業説明会が挙げられた。

### **第 3 位 大東建託**（総合評価点 80.6 点〔昨年度比+3.0 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（88%）、フェア・ディスクロージャー（83%）、自主的情報開示（72%）が第 4 位、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（80%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 9 位（74%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく伸びた。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が評価された。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること」については、第 6 位となった。これに関連して、年複数回の経営トップによる説明会開催を評価する声があった。なお、経営トップとの継続的な対話、双方向の対話の機会を期待する声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が最も高い評価となった。これに関連して、情報提供は十分に行われているとの声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」も同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が評価され、第 1 位と僅差の同得点第 2 位となった。また、「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていること」は同得点第 4 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が同得点第 5 位となった。なお、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は、平均得点率に達しなかった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」および「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」が、共に第 4 位となった。内容が充実していたものとして、ESG 説明会、事業説明会、物件見学会が挙げられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ LIXIL（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 77.2 点〔昨年度比＋8.6 点、一昨年度比＋13.5 点〕、第 5 位〔昨年度第 10 位、一昨年度第 15 位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第 2 位（84%）、自主的情報開示が第 3 位（77%）、経営陣の IR 姿勢等が第 7 位（78%）、説明会等が第 8 位（76%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 12 位（71%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てで得点率が改善し、特に、自主的情報開示の上昇幅が大きかった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること」が第 4 位となった。これに関連して、経営トップが四半期を含めた決算説明会に毎回出席するなど IR に積極的に関与していると評価する声が寄せられた。なお、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」は第 9 位であったが、昨年度に比べ、順位、得点率共に大きく上昇した。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となった。「説明会、インタビューにおける開示」（同得点第 8 位）および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（同得点第 10 位）についても、昨年度に比べ、得点率が上昇した。なお、製品別売上や増減益分析等の定量的な情報の継続的な開示について改善を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていること」も高い評価となった。これらの結果、この分野において、第 1 位と僅差の第 2 位となった。なお、海外向けの情報発信、月次売上の開示について評価する声があった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が高く評価された。なお、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は、平均得点率を下回った。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」が最も高い評価となった。また、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」も第 3 位となった。内容が充実していたものとして、ESG 説明会、LHT 説明会が挙げられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

○ リンナイ（総合評価点 77.1 点〔昨年度比＋6.6 点、一昨年度比＋10.6 点〕、第 6 位〔昨年度第 8 位、一昨年度第 14 位〕）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第 3 位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（81%）、説明会等が第 5 位（78%）、フェア・ディスクロージャーが第 8 位（82%）、自主的情報開示が同得点第 9 位（63%）となった。昨年度に比べ、同得点率であった経営陣の IR 姿勢等を除く 4 分野の得点率が改善し、特に、自主的情報開示およびコーポレート・ガバナンス関連の上昇幅が大きかった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が最も高い評価となった。これに関連して、役員による IR への関与が積極的で情報のレベルも高いと評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が高い評価となった。これに関連して、増減益分析、製品別の動向、海外子会社の動向が明確であるとの声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」（第 4 位）も 80%以上の得点率となった。なお、「四半期情報開示」については無得点であった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」が評価された。「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されているこ

と」は同得点第 9 位となったが、80%以上の得点率であった。なお、説明会や質疑応答の内容の揭示を求める声があった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が、同得点第 1 位となり、この分野において第 3 位となった。なお、資本政策や株主還元方針が明確であるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2 項目共に第 10 位であったが、昨年比べて、この分野の得点率は大きく（15 ポイント）上がった。

○ **TOTO（総合評価点 72.3 点〔昨年度比+6.7 点〕、第 10 位〔昨年度第 15 位〕**

同社は、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 5 位（76%）、**自主的情報開示**が第 6 位（65%）、**経営陣の IR 姿勢等**（70%）、**説明会等**が 10 位（74%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 14 位（78%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てで得点率が改善した。特に、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的情報開示**の上昇幅は 10 ポイント以上になり、総合評価点および総合順位の大幅な上昇につながった。

以 上

# 2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (建設・住宅・不動産)

(単位:点)

| 順位 | 評価項目<br><div>評価対象企業</div> | 総合評価<br>(100点) | 1. 経営陣のIR姿勢、<br>IR部門の機能、IR<br>の基本スタンス |    | 2. 説明会、インタビュー、<br>説明資料等における<br>開示 |    | 3. フェア・ディスク<br>ロージャー |    | 4. コーポレート・ガバナ<br>ンスに関連する情報<br>の開示 |    | 5. 各業種の状況に即した<br>自主的な情報開示 |    | 前回<br>順位 |
|----|---------------------------|----------------|---------------------------------------|----|-----------------------------------|----|----------------------|----|-----------------------------------|----|---------------------------|----|----------|
|    |                           |                | 評価点                                   | 順位 | 評価点                               | 順位 | 評価点                  | 順位 | 評価点                               | 順位 | 評価点                       | 順位 |          |
|    |                           |                | 評価項目2<br>(配点 25点)                     |    | 評価項目3<br>(配点 29点)                 |    | 評価項目2<br>(配点 16点)    |    | 評価項目2<br>(配点 13点)                 |    | 評価項目2<br>(配点 17点)         |    |          |
| 1  | 1928 積水ハウス                | 84.0           | 20.7                                  | 1  | 24.8                              | 2  | 13.4                 | 3  | 11.0                              | 1  | 14.1                      | 1  | 3        |
| 2  | 1925 大和ハウス工業              | 82.4           | 20.5                                  | 2  | 24.4                              | 4  | 13.6                 | 1  | 10.6                              | 2  | 13.3                      | 2  | 1        |
| 3  | 1878 大東建託                 | 80.6           | 20.0                                  | 5  | 25.4                              | 1  | 13.3                 | 4  | 9.6                               | 9  | 12.3                      | 4  | 2        |
| 4  | 1808 長谷工コーポレーション          | 78.7           | 20.5                                  | 2  | 24.8                              | 2  | 13.2                 | 5  | 9.9                               | 5  | 10.3                      | 12 | 5        |
| 5  | 5938 LIXIL                | 77.2           | 19.4                                  | 7  | 22.0                              | 8  | 13.5                 | 2  | 9.2                               | 12 | 13.1                      | 3  | 10       |
| 6  | 5947 リンナイ                 | 77.1           | 20.3                                  | 4  | 22.6                              | 5  | 13.1                 | 8  | 10.4                              | 3  | 10.7                      | 9  | 8        |
| 7  | 8801 三井不動産                | 75.4           | 19.8                                  | 6  | 22.3                              | 6  | 12.7                 | 12 | 9.9                               | 5  | 10.7                      | 9  | 4        |
| 8  | 8802 三菱地所                 | 75.0           | 19.1                                  | 8  | 22.3                              | 6  | 12.9                 | 9  | 10.2                              | 4  | 10.5                      | 11 | 5        |
| 9  | 8804 東京建物                 | 72.5           | 18.7                                  | 9  | 21.7                              | 9  | 12.9                 | 9  | 9.9                               | 5  | 9.3                       | 14 | 7        |
| 10 | 5332 TOTO                 | 72.3           | 17.4                                  | 10 | 21.5                              | 10 | 12.5                 | 14 | 9.9                               | 5  | 11.0                      | 6  | 15       |
| 11 | 1803 清水建設                 | 71.4           | 16.4                                  | 12 | 20.8                              | 12 | 13.2                 | 5  | 9.5                               | 10 | 11.5                      | 5  | 13       |
| 12 | 1802 大林組                  | 69.5           | 16.3                                  | 13 | 21.0                              | 11 | 12.7                 | 12 | 8.7                               | 15 | 10.8                      | 8  | 12       |
| 13 | 3289 東急不動産ホールディングス        | 69.3           | 17.1                                  | 11 | 20.1                              | 15 | 12.4                 | 15 | 8.8                               | 13 | 10.9                      | 7  | 9        |
| 14 | 1812 鹿島建設                 | 67.7           | 15.5                                  | 15 | 20.6                              | 13 | 12.9                 | 9  | 9.3                               | 11 | 9.4                       | 13 | 11       |
| 15 | 1801 大成建設                 | 66.6           | 15.4                                  | 16 | 20.5                              | 14 | 13.2                 | 5  | 8.8                               | 13 | 8.7                       | 15 | 14       |
| 16 | 8830 住友不動産                | 60.0           | 15.6                                  | 14 | 17.9                              | 16 | 11.4                 | 16 | 8.0                               | 16 | 7.1                       | 16 | 16       |
|    | 評価対象企業評価平均点               | 73.75          | 18.30                                 |    | 22.05                             |    | 12.93                |    | 9.61                              |    | 10.86                     |    |          |

## 2021年度評価項目および配点(建設・住宅・不動産)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

| 1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (25点)                                                                   | 配点 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| (1)経営陣のIR姿勢                                                                                           |    |
| ・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】 | 15 |
| (2)IR部門の機能                                                                                            |    |
| ・IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。                                                      | 10 |
| 2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (29点)                                                                       | 配点 |
| (1)説明会、インタビューにおける開示                                                                                   |    |
| ・短信および説明会資料等において、実績および計画（前提条件等を含む）を明記のうえ、理解を深めるような十分な説明がなされていますか。また、質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものです。         | 15 |
| (2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示                                                                        |    |
| ・部門別（注1）・会社別に受注、売上利益の実績と見通し（注2）は十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか。                       | 12 |
| (3)四半期情報開示                                                                                            |    |
| ・四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。〔四半期ごと開催：2点、3回開催：1点、その他：0点〕                                        | 2  |
| 3. フェア・ディスクロージャー (16点)                                                                                | 配点 |
| (1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢                                                                                |    |
| ・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（注3）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。                  | 8  |
| (2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供                                                                              |    |
| ・決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか。                                                         | 8  |
| 4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (13点)                                                                       | 配点 |
| (1)コーポレートガバナンス・コード                                                                                    |    |
| ・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。                                                       | 4  |
| (2)目標とする経営指標等                                                                                         |    |
| ・中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明がなされていますか。                                    | 9  |
| 5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (17点)                                                                           | 配点 |
| ①各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していますか。〔過去1年間を目安に評価〕 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】                            | 7  |
| ②非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか。                                                         | 10 |

（注1）「部門別」については、業態により・・・【ゼネコン】：国内・海外および官・民・土・建・その他、【住宅】：戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、【不動産】：分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、【住宅設備】：製品別・その他・・・と読み替えて下さい。

（注2）「受注、売上利益の実績と見通し」については、【不動産・住宅設備】については売上利益の実績と見通し・・・と読み替えて下さい。

（注3）「投資家にとって重要と判断される事項」とは、東証のT Dnetへの登録を含む次のような事項です。例えば・・・疫病、受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等。

建設・住宅・不動産専門部会委員

|       |        |                     |
|-------|--------|---------------------|
| 部 会 長 | 川嶋 宏樹  | SMBC 日興証券           |
| 部会長代理 | 伊藤 昌哉  | アセットマネジメント One      |
|       | 竹川 克彦  | 三井住友トラスト・アセットマネジメント |
|       | 寺岡 秀明  | 大和証券                |
|       | 橋本 嘉寛  | みずほ証券               |
|       | 前川 健太郎 | 野村證券                |
|       | 望月 政広  | マッコーリーキャピタル証券会社     |

評価実施アナリスト（27名）

|        |                     |        |                     |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 浅川 直騎  | 朝日ライフ アセットマネジメント    | 寺岡 秀明  | 大和証券                |
| 姉川 俊幸  | 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 | 富田 展昭  | 極東証券経済研究所           |
| 伊藤 昌哉  | アセットマネジメント One      | 中川 義裕  | みずほ証券               |
| 今泉 忠政  | 野村アセットマネジメント        | 橋本 嘉寛  | みずほ証券               |
| 今泉 達矢  | アセットマネジメント One      | 張江 徹也  | 三井住友 DS アセットマネジメント  |
| 入沢 健   | 立花証券                | 坂東 俊輔  | 東京海上アセットマネジメント      |
| 荻野 晃   | 丸三証券                | 福島 大輔  | 野村證券                |
| 川嶋 宏樹  | SMBC 日興証券           | 前川 健太郎 | 野村證券                |
| 栗原 英明  | 東海東京調査センター          | 三木 正士  | シティグループ証券           |
| 白崎 辰五  | りそなアセットマネジメント       | 道脇 祐介  | 三菱 UFJ 信託銀行         |
| 鈴木 洋平  | 富国生命投資顧問            | 望月 政広  | マッコーリーキャピタル証券会社     |
| 宝田 めぐみ | 東洋証券                | 八木 亮   | 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 |
| 竹川 克彦  | 三井住友トラスト・アセットマネジメント | 山口 啓朗  | 大和アセットマネジメント        |
| 田澤 淳一  | SMBC 日興証券           |        |                     |

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。